

平成31年4月全国学力・学習状況調査結果

大町町教育委員会

大町町教育委員会では、大町町児童生徒について、学校の下承のもと平成26年度から4月の全国学力・学習状況調査、佐賀県小・中学校学習状況調査の国語と算数・数学の結果について公表してきました。佐賀県小・中学校学習状況調査の見直しの動きに伴い、今年度は、全国学力・学習状況調査の結果を公表します。

大町町立小中一貫校大町ひじり学園は「大磨 智誠」を教育目標に小中一貫教育を推進する義務教育学校です。「夢に向かって絆・全力・挑戦」を目標としたキャリア教育を視点に、知・徳・体を大きく磨き、人格の完成をめざしています。今回公表する結果は、児童生徒の現時点での一面であり、学校では、今後の学力向上対策の一資料としています。

また、大町ひじり学園はコミュニティ・スクールであり、地域とともにある学校づくりを目指しています。保護者、地域の皆様に児童生徒の学習状況・意識調査を知らせることにより、大町町の教育への関心を高め、地域総ぐるみで教育を考える機会となればと考えております。

学習状況と意識調査（家庭での学習や生活状況等）の傾向を合わせて公表することにより、保護者、地域の皆様との連携体制の構築の一資料となればと考えています。

1 4月調査の学力・学習状況【対県比值】

※ 佐賀県平均を100とした時の大町町児童生徒の平均比較値（%）

	国語	算数・数学	英語
6年生	92%	96%	
9年生	87%	93%	100%

2 学力調査から見る町児童生徒の傾向

- (1) 6年生算数、9年生英語など県平均と同程度教科もあるが、やや県平均を下回る学力である。
- (2) 現9年生が6年生時と比較して、国語・数学とも向上している。
- (3) 両学年とも国語に課題があり、特に9年生の「話すこと・聞くこと」に課題がある。
- (4) 6年生の算数に対する関心が、県と比較して高い。9年生の英語に対する関心が県と比較して、非常に高い。

3 質問紙から見る町児童生徒の傾向

- (1) 両学年とも、「家庭や地域との連携」に関わる項目が、県と比較して非常に高い。特に、「保護者や地域の人との共同活動」は、極めて高い。
- (2) 9年生の「自己有用感・規範意識」に関わる項目が、県と比較して高い。特に、「人が困っている時に助ける気持ち」、「いじめはどんなことがあってもいけない」については、意識が高い。
- (3) 6年生の「生活習慣・学習習慣」に関わる項目が、県と比較して低い。特に、「同じ時刻の起床」、「普段の1日あたりの家庭学習量」については、大きな課題である。

4 学習状況と意識調査からみる町児童生徒の傾向

(1) 正答率が高い町児童生徒の傾向

○ 学校で

- ・ 学校の規則を守っている。
- ・ 課題の解決に向けて自分から考え、自分から解決に取り組んでいる。
- ・ 算数や数学の授業で、公式やきまりを習うとき、そのわけや根拠を理解するようにしている。

- ・ 授業で、意見や気持ちを述べ合っている。
- ・ 授業で学んだことを他の学習に生かしている。
- 家庭で
 - ・ 保護者と学校の出来事について話をする。
 - ・ 毎朝、同じ時刻に起きている。
 - ・ 朝食を食べている。

(2) 正答率が低い児童生徒の傾向

- 学校で
 - ・ 物事を最後までやり遂げた経験が少ない。
 - ・ 学級で友達と協力できていない。
 - ・ 失敗を恐れ、挑戦をしない。
- 家庭で
 - ・ 家で、自分で計画を立てて勉強をしていない。

5 学力向上に向けた町教育委員会の10の方策

- (1) 経年変化からみる全国学力・学習状況調査及び佐賀県小・中学校学習状況調査の分析
- (2) キャリア教育を柱とした小中一貫教育のさらなる推進
- (3) 学習指導充実のための人的・物的環境の整備
(小1プロブレム解消員、特別支援教育支援員の配置 加配教員の活用)
- (4) 学校訪問による大町ひじり学園教職員への授業力向上に係る指導助言
- (5) 大町町若手教員育成プログラムに基づく研修会の実施
- (6) 公設算数学習塾「まちじゅく」の開設
- (7) 小学部外国語活動の充実(学校ボランティア、ALT、中学部教員の活用)
- (8) 放課後及び長期休業中の補充学習の充実(学校ボランティアの活用)
- (9) 就学前児童保護者向け家庭教育講演の実施
- (10) 学校運営協議会の熟議・啓発

6 教育長のコメント

全国の小学6年生及び中学3年生を対象とした平成31年4月の全国学力・学習状況調査の結果が発表されました。大町町教育委員会では、この結果を学力指標の一部と捉えながらも、たいへん注視し長年にわたり経年変化を分析しているところです。

調査結果によれば、今年度も圧倒的な家庭学習の短さが浮き彫りになっています。スマートフォン使用による影響が懸念されています。大町ひじり学園の主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業改善と共に、家庭と連携した家庭学習の充実に向けた取組が重要と考えます。大町町教育委員会がしっかり支援していく所存です。

大町ひじり学園は、平成19年度から小中連携の研究を行い、平成23年度から小中一貫校として、平成28年度から九州初の義務教育学校として、キャリア教育を基軸に9年間をつなぐ小中一貫教育を着実に推進してきた結果、毎年、中学部生徒の学力向上が顕著になりました。特に、英語の成果には著しいものがあります。また、中学部生徒の問題行動が激減し、学校では毎日落ち着いた授業が展開されています。

大町町教育委員会は、児童生徒の多様な課題とこれまでの取組による確かな成果を踏まえ、大町ひじり学園が義務教育学校として、コミュニティ・スクールとして地域の宝となるよう、保護者・地域の皆様のお力をお借りしながら、今後も人的・物的な環境整備、教員の授業力・指導力向上への指導助言、家庭教育支援等に尽力してまいります。

そして結果として、一步一步児童生徒の学力向上、キャリア発達が図られるよう今後も効果的な事業を展開してまいります。

どうぞ保護者・地域の皆様のご協力をお願いいたします。